

国は「ぜん息患者医療費救済制度」の創設を！

ぜん息患者「公害調停」申立てる！



(トヨタ東京本社前行動)

2月18日(月)、全国公害患者の会連合会は、環境省(国)、自動車メーカー七社を被申立人として、公害等調整委員会に「公害調停」の申立てを行いました。全国からぜん息患者で未救済の患者九四人が申立てました(今後とも申立人を増やす予定)。

申立の要旨は、①環境省は、「大気汚染公害医療費救済制度を」創設すること、②自動車メーカーらは同制度に相応の財源負担をすることです。

自動車メーカーらは、販売した自動車(ディーゼル車)からの排出ガスにより、大気汚染が発生し、その結果、ぜん息患者を発生させたことによる社会的責任を果たすことです。

また、環境省は、「大気汚染を除去し、公害被害の発生を防止する義務があるにもかかわらず、その責任を」怠ったため、ぜん息患者が発生しました。国は、医療費救済制度を創設し、未救済患者の救済を図ることを求めています。

特に一九八八年に川崎区、幸区を含めた全国四一の公害指定地域解除後、未救済で苦しむ患者への救済は緊急の課題です。

自動車メーカーは

社会的責任を果たせ

申立団は、申立書の提出後、環境省と合わせて、トヨタ東京本社への申し入れを行いました。

トヨタ東京本社前には、申立団、支援者、二〇〇人を超える方が参加しました。

トヨタ東京本社前では、トランペット演奏から始まり、申立人が、ぜん息発作の苦しみや制度創設についての訴えを行いました。



2019年3月7日
川崎公害病患者と家族の会
川崎市川崎区砂子2-8-1-304
☎044-211-0391
川崎北部のぜん息患者と家族の会
川崎市高津区下作延1-13-45-102
☎044-833-9601

今年は川崎公害裁判全面解決から20年

全面解決をテコに、取り組みをふりかえる

2月9日（土）武蔵小杉のユニオンビルで「2019年新春のつどい」を開催しました。今年、川崎公害裁判全面解決20年の年に当たります。

つどいの第一部では、川崎の昔の風景、工場群が立地され、原風景が大きく変化した姿を追いました。その中で、深刻な大気汚染が発生し、被害者が発生し、苦しんだ姿を映しました。その後、患者会が結成された当時の運動をふりかえり、裁判の提訴、被告企業との交渉場面や日航ホテルでの解決式、道路公害を裁いた川崎公害裁判二次から四次判決の意義、その判決をテコに、国との全面解決を実現した経験をまとめました。全面解決で合意した国、道路公団（当時）との「道路連絡会」、そして川崎市との「検討会」を通じて、川崎の環境再生とまちづくり、公害根絶の取り組みをパワー・ポイントにまとめ、報告しました。

新春のつどいには、田中和徳衆議院議員、真山勇一参議院議員がお忙しい中、出席されました。山際大志郎、笠浩史、中山展弘衆議院議員、島村大参議院議員の秘書の方が出席されました。君嶋ちか子県会議員、市古映美、井口真美、片柳進川崎市会議員、横山正人横浜市会議員が出席されました。畑野きみえ衆議院議員、中西健治、佐々木さやか、牧山ひろえ参議院議員、公明党川崎市議団から祝電・メッセージをいただきました。ありがとうございました。

子どもたちとつながる川崎の未来

2月17日（日）武蔵小杉のユニオンビルで「第16回環境・まちづくり作文、絵画コンクール」の表彰式が行われました。このコンクールは、川崎市内の小・中学生を対象に川崎の環境やまちづくりについて考え合うことを目標に、川崎公害病患者と家族の会、川崎北部のぜん息患者と家族の会が毎年行っているものです。

コンクールは、川崎市、川崎市教育委員会をはじめ、各新聞社が後援、川崎文化会議が協賛していただき、取り組まれています。

応募作品は、子どもたちの環境、まちづくり、川崎市への思いが、こもった作品ばかりでした。

表彰式には、おじいちゃん、おばあちゃん、家族総出で出席していただき、会場は熱気にあふれていました。

このコンクールの表彰状は、入選された一人一人の作品の素晴らしいところを記した、世界でひとつだけの賞状となっているのも魅力です。

表彰式後、出席された皆さんは作品が展示されている中原市民ギャラリーで、家族で作品を楽しんでいました。第17回コンクールは、来年も行います。



表彰状を手渡す本間慎慎実行委員長（フェリス女学院大学元学長）